

令和5年度日本語指導研究推進事業  
実践報告資料集

兵庫県教育委員会


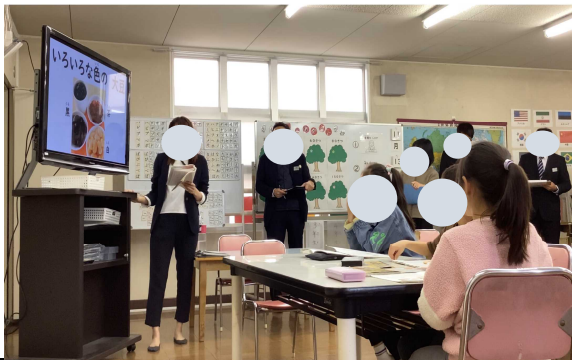
## 目次

- 1 芦屋市立潮見小学校 . . . 1
- 2 姫路市立花田小学校 . . . 9
- 3 丹波篠山市立丹南中学校 . . . 19

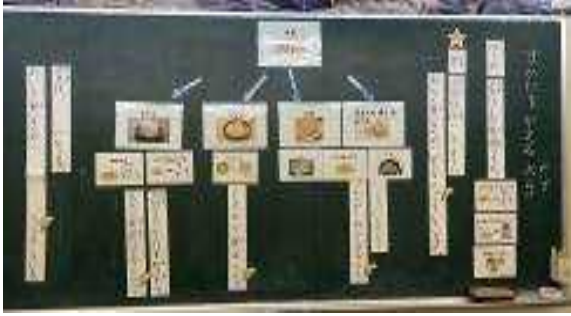
[学校名： 芦屋市立 潮見小学校 ]

【具体的な研究テーマ】  
在籍学級の学びにつながる日本語指導について

1 教科：単元名 国語科：すがたをかえる大豆・食べ物のひみつを教えます（光村図書）	
2 実施日（時期） 令和5年11月13日（月）	3 実施場所 こくさいルーム
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子…学年、学習状況、日本語習得状況など A児・・・学年：3年生 母語：中国語 滞日期间：8ヶ月 DLA（7月実施）：語彙力61%（母語100%） 話す1 読む1 書く1 聴く1 DLA（3月実施）：語彙力87% 話す4 読む4 書く3 聴く4 学習状況：1学期に「みえこさんのにほんご」を活用して初期日本語を学習。 2学期から日本語と教科の統合学習を始めた。  B児・・・学年：3年生 母語：中国語 滞日期间：8ヶ月 DLA（7月実施）：語彙力52%（母語98%） 話す1 読む1 書く1 聴く1 DLA（3月実施）：語彙力80% 話す3 読む4 書く3 聴く3 学習状況：下学年で編入。 1学期に「みえこさんのにほんご」を活用して初期日本語を学習。 2学期から日本語と教科の統合学習を始めた。  C児・・・学年：3年生 母語：中国語 滞日期间：13ヶ月 DLA（7月実施）：語彙力43%（母語94%） 話す2 読む2 書く2 聴く2 学習状況：2学期から日本語と教科の統合学習を始めた。 家庭内言語が中国語・モンゴル語・日本語と多岐に渡り、 コロナ禍の影響で編入前の学習や母語の獲得が不十分である。	
(2) 日本語指導に関する目標 ・ 接続語には文と文をつなぐ役割があることを理解し、使うことができる。（知識・技能） ・ 目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことができる。（思考・判断・表現） ・ すがたをかえる食べ物に関心を持ち、文章構成を理解しながら読んだり、それを生かして「すがたをかえる○○」を書いたり伝えたりすることができる。（学びに向かう力）	
(3) 主な学習活動 ①母語で大まかな単元の流れや、教材文の内容の大体を捉える。 ②言葉とイラストの教材を活用しながら教材文を読み、分かったことを文型モデルを使って表現する。	

<p>③接続語を使って複数の事例を挙げていることに気づき、「はじめ」「中」「おわり」の関係を理解する。</p> <p>④すがたをかえる食べ物の本を読み、分かったことを文型モデルを使って表現する。</p>
<p>5 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆は、おいしく食べるためのくふうによって、すがたをかえることが分かっている。</li> <li>・文型モデルを使って、文章を読んで分かったことを表現している。</li> </ul>
<p>6 指導内容の概要（※指導案別途添付）</p> <p>導入の段階では、子ども多文化共生サポーターと連携した母語による理解支援を行った。単元の大まかな流れを母語で説明することで、教材文の説明の仕方を利用して自分の調べたことを説明する文章を書くという見通しがもてるようにした。また、母語による読み聞かせを行い、教材文の内容の大体を捉えられるようにした。</p> <p>教材文を詳しく読む段階では、教材文の言葉をイラストと共に提示し、日本語の言葉のイメージを膨らませることで、教材文を読んで理解する手助けとなるようにした。言葉とイラストの教材は在籍学級の担任と共有し、在籍学級の授業でも活用してもらうことで、語彙習得を促すと共に、外国籍以外の児童の理解支援にもつながるようにした。</p> <p>また、教材文を読んで分かったことを、AU(Activity Unit)カードの日本語表現を活用して表現することで、様々な文型モデルを習得できるようにした。</p> <p>教材文で学習した文章構成を活用して自分の調べたことを書く段階では、児童にとって分かりやすい文型モデルを活用することで、自分の調べたことを自分の日本語の力で表現できるようにした。</p>
<p>7 指導内容・方法において工夫したところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞く」「話す」「読む」「書く」のバランスを意識して学習活動を行った。</li> <li>・教材文に出てくる言葉をイラストと共に提示する教材を作成し、実物を見たり動作化をしたりしながら学習した。</li> <li>・構造的な板書を意識し、文章の構成を視覚的に捉えられるようにした。</li> <li>・教材文を読み進める中で、児童からのつぶやきや対話を大切にし、経験を尋ねたり気づきを共有したりした。</li> <li>・食品の実物を用意し、文章から読み取ったことを実物と共に確認した。</li> <li>・単元の最後にある書く活動を見通し、習得させたい文型を取り出し指導で繰り返し練習した。</li> <li>・作成した教材を在籍学級の担任と共有したり、児童のノートに貼ったりし、いつでも授業中に確認できるようにした。</li> </ul>
<p>8 教材・教具</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルビつき教科書（光村図書 3年下）</li> <li>・言葉とイラストのカード（PowerPoint・プリント）</li> <li>・ワークシート</li> <li>・食品の実物（炒り豆・煮豆・きな粉・豆腐・納豆・味噌・醤油・枝豆・もやし）</li> </ul>
<p>9 活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等</p> <p>【母語による読み聞かせ】</p> <p>【言葉とイラストを見ながら読み聞かせ】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

【板書】



【児童のノート（言葉とイラスト）】



【読んで分かったことを 実物で確認】



（原材料名の欄を 注意深く確認）



【段落の並び替え 接続語の確認】



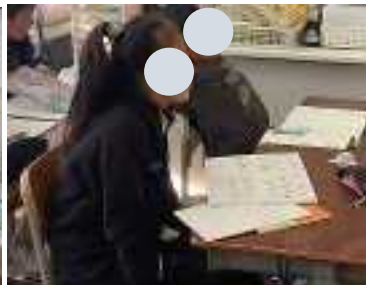
【ワークシート】



【在籍学級での授業】



（同じ教材を使って）



（手元にはイラスト教材）



（積極的に発表）

【児童の感想】

- ・ 中国では白い豆を知りません。日本に来たこの時間に初めて知りました。
- ・ 味噌は日本で初めて見ました。日本に来て、給食の味噌汁を初めて食べました。
- ・ 大豆は、そのまま食べたらかたいのを知りました。
- ・ 勉強が楽しかった。たくさん発表できて、うれしい気持ちになりました。

## 10 日本語能力測定方法と評価(DLAの活用)

DLAの測定は、日本語指導が必要な児童全員を対象に実施した。測定者は、日本語指導研究推進教員である。

「聞く」「話す」「読む」「書く」、それぞれの領域についてどれくらいの日本語力を持っているかを知ると共に、課題への向き合い方や、分からない言葉があったときの対処の仕方、物事をじっくりと考える様子、知っている言葉を使って何とか伝えようとする姿など、児童の学び方や取り組み方を知ることができた。

評価については、校内の日本語指導研究推進委員会や職員会議で共有し、日本語指導が必要な児童の実態把握の一つとして活用し、児童の支援や指導に役立てている。

## 11 実践をとおしての成果

理解支援としての言葉とイラストの教材は、在籍学級の授業で飛び交う学習言語が、少しでも知っている言葉や分かる言葉となり、授業に主体的に参加できるようになればという願いのもと作成した。教材作成には綿密な教材研究と多大な時間を要するが、児童が内容を理解したり、友だちと対話したり、生き生きと授業に参加したりするための、効果的な手立てとなった。

教材を取り出し指導での活用に留めることなく、在籍学級の担任と共有し、授業で活用してもらうことは、取り出し指導と在籍学級での学習に確かなつながりを生み出すことができた。言葉とイラストを手元のノートでいつでも確認できるようにすることで、安心感や自信をもって学習に臨む児童の姿が見られた。教師や友だちの話す日本語に耳を傾け、積極的に挙手をして発表することができ、達成感を味わっている様子だった。

また、在籍学級のすべての児童にとっても、内容理解のための手立てとなったことは、大きな成果であった。児童たちの「○○って何?」「○○ってどういう意味?」のつぶやきに対応できることは、学級全体への理解支援につながった。

表現支援としての文型モデルの提示は、単元を通して活用することで、児童にとって「使える日本語表現」として定着を図ることができた。単元の終わりに取り組んだ「すがたをかえる○○」では、自分の調べたことを文型モデルに落とし込んで考えることができ、自信をもって説明文を書き上げていた。

また、取り出し指導の中で、話したり聞いたりする時間を十分に確保することで、児童は自分の気づきや考えを、自分の知っている日本語表現で一生懸命に伝えようとする姿が見られた。在籍学級や全体指導ではなかなか確保できない、児童のペースに合わせた自分で表現する時間の積み重ねが、「使える日本語表現」とするための大切な経験となっていた。

## 12 今後の課題

「特別の教育課程」を実施するにあたっては、日本語指導が必要な児童が多数在籍していることや、支援段階にばらつきがあること、多学年・多クラスにまたがっていることから、授業進捗の確認や時間割調整が非常に煩雑なものとなり、効果的・効率的に指導を行うことが難しかった。日本語指導を効果的に行うために、クラス編成や時間割編成に配慮があることを学校全体で確認し、「特別の教育課程」による日本語指導をさらに充実させていく必要がある。

## 第3学年 国語科（日本語指導）学習指導案

指導者 内藤 早央里

1 日時 2023年11月13日（月）5校時

2 単元名 すがたをかえる大豆・食べ物のひみつを教えます（光村図書）

3 単元の目標

- ・接続語には文と文をつなぐ役割があることを理解し、使うことができる。（知識・技能）
- ・目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことができる。（思考・判断・表現）
- ・すがたをかえる食べ物に関心を持ち、文章構成を理解しながら読んだり、それを生かして「すがたをかえる○○」を書いたり伝えようとしたりすることができる。（学びに向かう力）

4 指導にあたって

(1) 児童観

対象児童は3名である。滞日年数が8ヶ月～1年の児童で、顔を合わせると母語の中国語での会話が活発である。子ども多文化共生サポーターによる母語支援や、日本語指導教員による取り出し指導、放課後の「こくさいルーム」での初期日本語指導、日本語教室、教科学習の支援を受けながら日々学んでいる。

	母語 滞日年数	D L Aの結果(7月)と 児童の実態
A	中国語 8ヶ月	【D L A 語彙力 61% (母語 100%) 話す1 読む1 書く1 聴く1】 1学期に1日1時間取り出し指導を行い、「みえこさんのにほんご」を活用して初期日本語を学習した。学ぶ意欲が高く、覚えた言葉や文型を積極的に使おうとする姿がある。
B	中国語 8ヶ月	【D L A 語彙力 52% (母語 98%) 話す1 読む1 書く1 聴く1】 1学期に1日1時間取り出し指導を行い、「みえこさんのにほんご」を活用して初期日本語を学習した。理解力が高く、覚えた文型を応用したり、助詞を正しく使おうとしたりする姿がある。引っ込み思案な性格もあり、在籍学級ではなかなか自分を出せずにいるが、こくさいルームでは伸び伸びと学んでいる。
C	中国語 1年1か月	【D L A 語彙力 43% (母語 94%) 話す2 読む2 書く2 聴く2】 家庭内言語は父とは中国語、母とはモンゴル語と日本語というように、多言語に渡っている。また、編入前はモンゴル語の学校に通っており、さらにコロナ禍のためオンライン授業であったことなどから、モンゴル語も中国語も読み書きはほとんどできない。母語の獲得が不十分であることが、今後の日本語の習得に影響が出てくることを心配している。

## (2) 教材観

本教材「すがたをかえる大豆」は、「はじめ・中・おわり」の3つの大きなまとまりで構成され、「はじめ」の話題提示について、「中」で5つの事例を用いて説明し、「おわり」に筆者の意見を説明した文章である。そのため、説明の中心となる語や文を捉えたり、段落相互の関係を考えながら、筆者の説明の工夫を見つけたりするのに適している。

大豆をおいしく食べるための工夫の説明を、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「さらに」の接続語に着目して読み取ることで、事例が提示される順番の工夫を見つけることができる。自分の考えを分かりやすく伝えるための文章構成を知り、それを生かして自分の調べたことを書いたり伝えたりできるようにしたい。

## (3) 指導観

全員が日本語の初期支援段階の児童であるため、母語を使った理解支援や、日本語の言葉のイメージを膨らませる理解支援、作文のモデルを示す表現支援を行い、在籍学級での学習に主体的に参加できるようにしたい。

導入の段階では、子ども多文化共生サポーターと連携した母語による理解支援を行う。単元の大まかな流れを母語で説明することで、教材文の説明の仕方を活用して自分の調べたことを説明する文章を書くという見通しがもてるようにしたい。また、母語による読み聞かせを行い、教材文の内容の大体を捉えられるようにする。

教材文を詳しく読む段階では、教材文の言葉をイラストと共に提示し、日本語の言葉のイメージを膨らませることで、教材文を読んで理解する手助けとなるようにしたい。言葉とイラストの教材は在籍学級の担任と共有し、在籍学級の授業でも活用してもらうことで、語彙習得を促すと共に、外国籍以外の児童の理解支援にもつなげたい。

また、教材文を読んで分かったことを、AU(Activity Unit)カードの日本語表現を活用して表現することで、様々な文型モデルを習得できるようにしたい。

教材文で学習した文章構成を活用して自分の調べたことを書く段階では、児童にとって分かりやすい文型モデルを活用することで、自分の調べたことを自分の日本語の力で表現できるようにしたい。



5 単元計画（全12時間）

時	指導形態	学習活動	教師の支援
1	取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母語で、単元の大まかな流れを確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・母語で教材文の読み聞かせを聞き、内容の大体を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども多文化共生サポーターと連携し、母語による理解支援を行う。</li> <li>・ルビつきの教材文を準備し、自分で読み進められるようにする。</li> </ul>
2	在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を設定し、学習計画を立てる。</li> <li>・段落分けを確かめながら、文章全体の組み立て（はじめ・中・おわり）を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動で使用するワークシートを提示し、活動の見通しをもてるようにする。</li> </ul>
3	取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめ」を読み、文章全体の話題を確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆に手を加えるときの言葉の意味を、イラストを見たり動作化をしたりすることで捉えられるようにする。</li> </ul>
4	取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中」を読み、挙げられている事例を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文の言葉をイラストと共に提示し、日本語の言葉のイメージを膨らませる理解支援を行う。</li> <li>・事例の説明から分かったことを、文型モデルを使って表現できるようにする。</li> </ul>
5	取り出し		
6	取り出し		
7	取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おわり」を読み、筆者の考えを確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中」の事例が、接続語によってつながれており、「おわり」では「このように」という接続語でまとめられていることを、視覚的に理解できるようにする。</li> </ul>
8	在籍学級 入りこみ (母語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の食べ物を扱った本を読み、調べたい食材を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども多文化共生サポーターと本を読み、調べたいことを決められるようにする。</li> </ul>
9	在籍学級 入りこみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた内容を整理する。</li> </ul>	
10	在籍学級 入りこみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた内容を文章に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって分かりやすい文型モデルのワークシートを活用し、調べたことを自分の日本語の力で表現できるようにする。</li> </ul>
11	在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと文章を読み合い、感想を伝え合う。</li> </ul>	
12	在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を振り返る。</li> </ul>	

## 6 本時の目標

(教科の目標)

- 大豆はおいしく食べるためのくふうによってすがたをかえることができる。

(日本語の目標)

- 「大豆は、～になります。」「おいしく食べるために、～くふうをしています。」の文型モデルを使って、文章を読んで分かったことを表現することができる。

## 7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
1 言葉のイラストを見ながら、教材文の読み聞かせを聞く。  2 言葉の意味を確認し、復唱する。  3 事例の内容を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆっくりと読み聞かせを行い、言葉のイメージを膨らませながら、教材文を聞けるようにする。</li> <li>具体物を見たり、動作化したりして、日本語の言葉のイメージを膨らませながら理解できるようにする。</li> </ul>	
「大豆は、何になりますか？」(AU:C-12 変化の結果を観察する2) 「どんなくふうをしていますか？」(AU:A-1 知識を確認する1)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>大豆は、豆まきに使う豆になります。</li> <li>大豆は、に豆になります。</li> <li>大豆は、おせちりょうりの黒豆になります。</li> <li>大豆は、きなこになります。</li> <li>大豆は、とうふになります。</li> </ul> 4 文型モデルを使って、文章を読んでわかったことを表現する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆は、～になります。</li> <li>おいしく食べるために、～をしています。</li> <li>～のくふうをしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例に出てくる食品を知っているか、食べたことがあるかなど、経験を尋ねたり対話したりすることで、事例の内容に興味をもてるようにする。</li> <li>イラストや文型モデルを使って構造的な板書を意識し、大豆が何にかわったのか、おいしく食べるためにどんなくふうをしているのかを、視覚的に理解できるようにする。</li> <li>文型モデルを使ったワークシートで、繰り返し練習できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大豆は、おいしく食べるためのくふうによってすがたをかえることがわかっている。</li> <li>文型モデルを使って、文章を読んでわかったことを表現している。</li> </ul>

[学校名：姫路市立花田小学校]

## 【具体的な研究テーマ】

主体的に学ぶ子どもと教師をめざして

～「もっと知りたい」「もっとやりたい」と思える授業づくり～

1 教科：単元名 算数科：比とその利用	
2 実施日（時期） 令和5年10月10日（火）	3 実施場所 6年1組教室
<p>4 児童・生徒の実態に応じたねらい</p> <p>A 児 母との会話はベトナム語、兄弟との会話は日本語  B 児 両親との会話はベトナム語、カンボジア語も混ざる。姉妹での会話は日本語  C 児 母親との会話は日本語とベトナム語が半々  D 児 両親との会話はベトナム語、兄弟との会話は日本語  E 児 両親との会話はベトナム語、兄弟との会話は日本語  F 児 父親との会話はベトナム語、母親と兄弟との会話は日本語とベトナム語が混ざる  G 児 母親との会話は日本語とベトナム語が半々、姉との会話は日本語  H 児 父親はベトナム人だが、家庭内では日本語</p> <p style="text-align: right;">※詳細は指導案に記載</p> <p>(2) 日本語指導に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「部分と全体」の比の意味がわかる。(ア)【教科語彙(新出語や難語)の意味がわかる]</li> <li>・「式(図)の <input type="text"/> が全体の比を表します。」「<input type="text"/> が全体の数を表します。」というように、に数を入れて説明することができる。(イ)【ある表現を通して、自分の意見や思考過程を言う(書く)ことができる]</li> </ul> <p>(3) 主な学習活動時</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①線分図を活かして、本時の課題をつかむ。</li> <li>②前時までに学習したことを使って様々な方法で問題を解く。</li> <li>③ペアや全体で考えを交流する。</li> <li>④適応題を解く。</li> </ol>	
5 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要） ※詳細は指導案に記載	
<p>6 指導内容の概要（※指導案別途添付）</p> <p>(1)問題を読み本時の課題を理解する。<input type="text"/> <input type="text"/></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①タブレットで具体的な数を操作する。</li> <li>②線分図で前時との違いをさがし、本時のめあて「全体の数を使って、部分の数をもとめよう」を理解する。</li> </ol> <p>(2)部分の数を求める。<input type="text"/></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図、等しい比や比の値等、前時までに学習したことを活かして、いろんな方法で問題を解く。</li> <li>②式の5が何であるかを考えて、ペアで話し合ったり全体で交流したりする。 ・黒板の線分図と関連付けながら、全体の比について説明する。</li> <li>③学びをまとめる。</li> </ol> <p>(3)適応題を解く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①線分図や式のどの部分が「全体の比」にあたるのかを考えながら解く。</li> <li>②どの方法で解いたか、考えを交流する。</li> </ol> <p>(4)ふりかえる</p>	

7 指導内容・方法において工夫したところ

- ・1年生からの依頼という設定で問題を提示し、課題に取り組む意欲を高めた。
- ・比の関係を線分図で考えさせることで、視覚的に捉えやすくした。また、自分の考えを線分図と関連付けながら、ペアや全体に説明する機会を多く設け、わかりやすく伝える力を育んだ。

8 教材・教具

- ・タブレット ・デジタルくじ ・線分図 ・全体の比、部分の比、全体の数、部分の数の掲示用カード

9 活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等  
板書

めあて 全体の数を使って 部分の数を求めよう。 ←

はずれの数を求めよう ←

前回 ←

部分の比 ← 部分の比 ←

2 ← 5 ←

□枚 ← 150枚 ←

部分の数 ← 部分の数 ←

全体の比 ←

部分の比 ← 部分の比 ←

2 ← 3 ←

□枚 ← 250枚 ←

部分の数 ← 全体の数 ←

あたりの数を求めよう ←

比の値を使って ←

$$2 : \boxed{5} = \frac{2}{5} \leftarrow$$

$$250 \times \frac{2}{5} = 100 \leftarrow$$

100枚 ←

1あたりの数 ←

$$250 \div \boxed{5} = 50 \leftarrow$$

$$50 \times 2 = 100 \leftarrow$$

100枚 ←

等しい比を使って ←

$$2 : 5 = x : 250 \leftarrow$$

$$250 \div \boxed{5} = 50 \leftarrow$$

$$50 \times 2 = 100 \leftarrow$$

100枚 ←

まとめ ←

全体の数を使って部分の数を  
求めるときは、全体の比を使っ  
て求めればよい。 ←

$$250 \times \frac{3}{5} = 150 \leftarrow$$

$$250 - 100 = 150 \quad \underline{150枚} \leftarrow$$



\* タブレット  
を使って、  
250枚の  
カードを当  
たりと外れ  
2 : 3に分  
ける。

児童の感想

- ・わからなかったところも多かったけど、図を使って考えると少し考えやすくなりました。
- ・友だちに何回も説明しているうちに、少しずつ話せるようになりました。
- ・学習の最後に、比の考えを使ってカルピスの量を調整しました。算数で学習したことが生活で使えることを感じました。

10 日本語能力測定方法と評価（DLAの活用）

- ・日本語指導が必要な外国人児童等の実践把握をするために、日本語習得度確認シートでアセスメントを行うことで、対象児童の実態を踏まえた授業づくりを行った。

## 11 実践をとおしての成果

- ・姫路市・帰国外国人児童生徒等受入促進事業連絡協議会における公開授業として実施。今回の授業をするにあたって、児童の家庭での様子やレディネステストによる学習調査を行ったことにより、児童の実態を詳しく知ることができた。家庭では、2か国語以上を使い、親や兄弟とコミュニケーションをとる中で、言語面での困難を抱えていること、学校では、学習の積み上げができていないために基本的なことがわからず学力面での困難を抱えていることが明らかになった。学習には連続性があり、できていなければ、戻って学習の補充をする必要がある。その困りごとが言語によるものなのか、学習理解あるいは認知発達によるものなのか等、児童一人ひとりのきめ細やかな実態把握をすることの大切さを全職員で共通理解できた。
- ・まずは、自分の言葉で考えを説明する。その説明にうなずいた児童にもう一度説明させる。さらに・・・というように児童同士の対話を増やし、何回か説明させることで、どのように表現すればいいか児童たちが主体的に活動することができた。話すことが苦手な児童も、話型を参考にしたり板書に記されたキーワードを手掛かりにしたりすると、説明することができた。対話的な学ばせ方をすることで、言語面で困難を抱える児童も表現力、理解力をつけることができた。

## 12 今後の課題

- ・児童の家庭での様子、日本語能力、学習言語の力など児童のきめ細やかな実態把握を効率よく行っていく必要がある。今後、児童生徒支援教員(日本語指導)や母語支援員によるDLAも積極的に活用し、アセスメントしていく予定である。また、その実態を全職員で共有し、指導にいかせるようにしていかなければならない。さらに本校は取り出し授業を行っている特別の教育課程に基づく支援対象児童が多いが、児童の日本語能力には相当のひらきがある。児童の実態把握をもとに、取り出し児童の見直しをし、さらに個に応じたきめ細やかな指導ができるようにしていきたい。
- ・外国にルーツをもつ児童が在籍学級で学習ができるように、3つの支援(理解支援・表現支援・記憶支援)を効果的に取り入れた、教科指導型日本語指導の研修、また個々の教員がアセスメント評価を的確にできるようにする研修等をさらに充実させていく必要がある。児童が主体的に学びたいと思える授業を目指し、実践を積み上げていきたい。

## 1 単元名 比とその利用

## 2 趣旨

- 本単元では、学習指導要領「C 変化と関係」の内容を取り扱う。第5学年「割合」の単元では、2つの数量AとBを比較し、「AはBの2倍である」「BはAの $\frac{1}{2}$ である」という、どちらか一方の数量を基準とし、1つの数で割合を表す方法を学習してきた。比は、2つの数量の割合を表す場合に、どちらか一方を基準量とするのではなく、2つの数の組で表す方法として、比の意味や表し方を学習する。比の考えは、割合の学習はもとより、比例と反比例、除法の性質、分数の性質とも結び付くものであり、本単元の学習を進めていく上で、これらの既習事項との共通性に注目させ、相互に理解が深められるよう指導を工夫していきたい。

- 本学級には、42名の児童が在籍している。外国にルーツをもつ児童が8名おり、学習や生活の中で言語面の支援が必要である。(現在抽出児童は8名記載。別紙記載)

これまでの学習から、比を理解するための基本となる第5学年の「割合」や第6学年の分数に関する単元で算数的困難さを感じている児童が多い。困難な理由としては、どちらの数量を基準とするかによって割合が異なったり、同じ割合を表すのに、小数や分数、百分率などがあり、場面に応じて使い分ける必要があったりするためであると考え。また、具体的な数量を、全体を1とする割合を用いる考え方がより困難さを感じる要因となっている。

	問題	正答率		問題	正答率
3年	何倍でしょう 何倍かを求める	87%	5年	割合 何倍かを求める	69%
	何倍でしょう 基準量を求める	79%		割合 基準量を求める	79%
4年	何倍でしょう 比較量を求める	92%		割合 比較量を求める	67%
	何倍かを線分図で表す	23%		割合を線分図で表す	5%
	何倍かを関係図で表す	64%			

レディネステストの分析より、数量の関係を線分図や関係図に表すことに困難さを感じていることが明らかになった。文章問題の基準量と比較量が線分図のどこにあたるのか、全体に対する基準量や比較量の大体の大きさを表すことができていなかった。また、四則計算の意味を線分図に表すことを苦手としている児童も多かった。

- 指導にあたっては、比は日常生活のいろいろな場面で用いられており、その中から比が用いられている事象を探したり、それを活用したりするなど、具体的な場面で比の意味や性質を明らかにしていくよう活動を構成する。

本単元では、まずソースを作る場面でマヨネーズとケチャップを混ぜた割合の表し方を考えさせる。目の前でソースを混ぜ合わせることを見せ、mLのかさとしての比や、スプーンが何杯かの数としての比を実感させる。また、これまでの割合の学習では、「マヨネーズがケチャップの何倍か」を考えると、1.2倍であり、1.2:1と表すこともできる。比の表し方だと、30:25と表すことができ、直感的に数量を理解しやすいことが比のよさであることに気付かせたい。次に、立てられた棒と影の比を考えることで、等しい比の関係を調べ、比の性質を理解させたり、その比の

性質を用いて小数や分数の比を簡単な整数で表すことができることに気付かせたりする。また、比の値が割合の「～は、～の何倍である」という考え方と同じであることに気付かせ、割合の考えをより深めることもねらいたい。応用の場面では、問題の数量や比が線分図のどの部分を指しているのかを読み取ったり、四則計算の意味を線分図で考えさせたりする。線分図の書き方を丁寧におさえることで、児童の線分図に対する苦手意識を減らしたい。さらに、その線分図から既習事項を用いて、くじのあたりとはずれの比を考える場面を設定する。部分同士や部分と全体の比を意識づけるように、「式(図)の□が全体の比を表します。」「□が全体の数を表します。」の□に言葉や数を入れて表現させる。同時に等しい比や比の値の性質を用いても答えを求められることも、児童の発言やノートから取り上げ、全体交流を通して、比のもう一方の数量を求められることを捉えさせていく。

単元を通して、どちらが多いか少ないかといった大小を感じることや、ペアや全体で1つ1つの数量や比を説明するアウトプットの機会を多く設けることで、数量に対する感覚や説明する力を育成していくことをめざしたい。また、比のよさを理解し、生活や学習に活用しようとする態度を育てたい。

### 3 小中一貫教育の視点

#### 第2学年

倍の概念、倍と乗法  
割合分数の素地

#### 第3学年

何倍でしょう  
・何倍かを求める除法(第1用法)  
・基準量を求める除法(第3用法)  
・比較量を求める乗法(第2用法)  
・a倍のb倍の場面で比較量を求める問題(順思考)

#### 第4学年

簡単な割合  
・割合の概念  
・割合の第1～3用法  
・a倍のb倍の場面で比較量を求める問題(逆思考)  
小数倍

#### 第5学年

割合を表す小数  
・割合の第1～3用法  
・百分率、歩合  
・割合の加減の場面で比較量を求める問題(順思考)  
・割合の加減の場面で比較量を求める問題(逆思考)  
分数倍

#### 第6学年

割合の増減に関する問題  
割合を表す分数  
比  
・比の表し方、比の値、等しい比とその間の関係  
・比の一方の数量を求める問題  
・全体をきまった比に分ける問題  
全体を1として考える問題

#### 中学1年

一元一次方程式

#### 4 単元目標

- ・比の意味と表し方を理解し、比を用いて表したり、等しい比を見つけて比を簡単にしたりすることができる。【知識・技能】
- ・比を用いて考え、問題を解決することができる。【思考・判断・表現】
- ・比のよさがわかり、進んで活用しようとする。【主体的な態度】

#### 5 単元の指導計画（全8時間）

時	児童の学習内容・活動	評価	大切な言葉（新出語・既習語・難語・「表現」）※太字は特に大切な言葉
1	比の表し方  カレーの比 オーロラソースを作るときのマヨネーズとケチャップの比	（技）2つの量の大きさの割合を比の形に表すことができる。 （態）身のまわりで比がどのように用いられているかに関心を持ち、見つけようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合</li> <li>・：<u>（たい）</u></li> <li>・<u>比</u></li> <li>・<u>～と～の比</u></li> <li>・「<u>～の数で考えれば、比は・・・</u>」</li> </ul>
単元のめあて		比の比べ方はどんなときに役立つのかを調べよう。	
2	等しい比の関係を調べる  2つの棒と影の比を比べ、棒と影の関係のきまりを見つける	（技）比の値の意味や比が等しいことの意味を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～は、～の何倍」</li> <li>・<u>比の値</u> <math>a \div b = \frac{a}{b}</math></li> <li>小数で表すこともできる</li> <li>・<u>比が等しい</u></li> <li>・「<b>比の値が同じなので、比が等しいといえます。</b>」</li> </ul>
3	比を簡単にする	（考）等しい比の意味や性質をもとに、比を簡単にする方法を考えたり説明したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべて <math>a : b</math> に等しくなる</li> <li>・「両方の数に○をかけても」</li> <li>・「両方の数を○でわっても」</li> <li>・<u>できるだけ小さな整数</u></li> <li>・「<b>両方を○でわると比を簡単にできます。</b>」</li> <li>・<u>簡単な整数の比</u></li> <li>・最大公約数</li> </ul>
4	小数や分数を使って比を表す 小数や分数で表された比を簡単にする	（技）小数や分数の比を簡単な整数の比で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数の比</li> <li>・「<b>整数の比になおしてから</b>」</li> <li>・「<b>通分してから</b>」</li> <li>・「<b>比の値を利用して</b>」</li> </ul>
5	練習 学習内容を確実に身につける		（・部分と全体の比）
6	比のもとにする量を求めたり、もう一方の部分の数量を求めたりすることができる	（考）与えられた比をもとに、2つの量の関係を図や式に表して考えたり説明したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線分図</li> <li>・くらべる量やもとにする量</li> <li>・「～の数を x 枚として」</li> <li>・<u>比の1にあたる量</u></li> <li>・<u>部分の数</u></li> <li>・「<b>○は部分の数を表します。</b>」</li> </ul>



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>部分の比</u></li> <li>・ 「○は部分の比を表します。」</li> </ul>
7 本時	数が決まっているものを決まった比に分けることができる	(考) 与えられた比をもとに、全体の大きさにあたる割合をとらえて分けたときの量を求めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>全体の数</u></li> <li>・ 「○は全体の数を表します。」</li> <li>・ <u>全体の比</u></li> <li>・ 「○は全体の比を表します。」</li> <li>・ 「<u>全体の比は○です。</u>」</li> </ul>
8	たしかめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「<u>全体の比は○です。</u>」</li> </ul>

## 6 本時の学習 (第7 / 8時)

### (1) 本時の目標

- ・ 与えられた比をもとに、全体の大きさにあたる割合をとらえて、分けたときの量を求めている。

【思考・判断・表現】

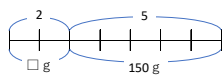
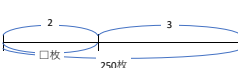
### (2) 日本語の目標

- ・ 『「部分と全体」の比』の意味がわかる。(ア) 【教科語彙 (新出語や難語) の意味がわかる】
- ・ 「式 (図) の  が全体の比を表します。」 「 が全体の数を表します。」 というように、 に数を入れて説明することができる。(イ) 【ある表現を通して、自分の意見や思考過程を言う (書く) ことができる】

### (3) ターゲットセンテンス

- ・ 5 って何。(全体の比を表す割合)
- ・ 全体の比はどこですか。

### (4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 ◆評価 理解支援 (理) 表現支援 (表) 記憶支援 (記)	備考
<p>1 <input type="text"/> つかむ <input type="text"/> 見通す</p> <p>問題 1年生のくじを作ります。くじ引きが全部で250枚。あたりとはずれの比を2:3とすると、あたりとはずれは何枚必要でしょう。</p> <p>前時 </p> <p>本時 </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導上の留意点 ◆評価 理解支援 (理) 表現支援 (表) 記憶支援 (記)</li> <li>・ 問題の意味をつかませるために、タブレット上でデジタルくじ250枚をあたりとはずれの数の比が2:3になるように分ける操作を行わせる。(理)</li> <li>・ 前時と同様に線分図からかかせる。その際、「部分の数」や「部分の比」などをおさえ、前時の学習内容を想起させる。キーワードとなる言葉を色分けし、視覚的に判別しやすくする。(記)</li> <li>・ 前時の線分図と比べ、全体の数が新しく出てきていることをおさえる。本時は全体の数を使って解く問題であることを捉えさせる。(理)</li> </ul>	<p>デジタルくじ</p> <p>掲示物</p> <p>掲示物</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           全体の数を使って、部分の数を求めよう。         </div>		
<p>2 <input type="text"/> 解決する</p> <p>○個人思考</p> <p>① 図を使って <math>250 \div 5 = 50</math> <math>50 \times 2 = 100</math> <u>100枚</u></p> <p>② 等しい比を使って</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、あたりの数を求めることを示し、問題を解かせる。</li> <li>・ 机間巡視を行い、児童がどの方法で解いているか記録しておく、左記の①の考えで解いている児童を意図的に指名する。</li> <li>・ 式の5が何であるかを問い、ペアで話し合いをさせたり全体交流をさせたりする。黒板の線分図と関係づけながら全体の比について説明させる。(理) 説明が難しい児童は、全体</li> </ul>	

$$2:5=x:250$$

$$250 \div 5 = 50$$

$$50 \times 2 = 100 \quad \underline{100 \text{ 枚}}$$

③ 比の値を使って

$$2:5 = \frac{2}{5}$$

$$250 \times \frac{2}{5} = 100 \quad \underline{100 \text{ 枚}}$$

$$250 \times \frac{3}{5} = 150$$

$$250 - 100 = 150$$

150 枚

○学びをまとめる

3 やってみる

適用題

もう一つのくじ引きが全部で280枚。あたりとはずれの比が3:4とすると、あたりとはずれは何枚必要でしょう。

○個人思考

$$280 \div 7 = 40$$

$$40 \times 3 = 120 \quad \underline{120 \text{ 枚}}$$

$$3:7=x:280$$

$$280 \div 7 = 40$$

$$3 \times 40 = 120 \quad \underline{120 \text{ 枚}}$$

$$3:7 = \frac{3}{7}$$

$$280 \times \frac{3}{7} = 120 \quad \underline{120 \text{ 枚}}$$

$$280 \times \frac{4}{7} = 160$$

$$280 - 120 = 160$$

160 枚

4 ふり返る

交流の際の説明を参考にしたり、板書の言葉を使って話したりするように促す。(表)

- ・全体の比にあたる5を赤で四角囲みすることで印象に残るようにする。(記)
- ・次に50が何であるかも問い、比1つあたりの枚数であることもおさえておく。(理)
- ・ほかにも左記の②や③の考え方をした児童を指名し説明させ、①と同様に、5が全体の比であることを何度もおさえさせる。(記)
- ・③の場合、 $\frac{2}{3}$ ではだめなのか揺さぶりをかけ、再び $\frac{2}{5}$ であることを説明させることでより理解を深めさせる。(理)
- ・全体あたりの数で、はずれの数を求めてもよいことをおさえる。(理)

まとめ

全体の数を使って部分の数を求めるときは、全体の比を使って求めればよい。

- ・もう一方のくじ引きのあたりとはずれの数を求めさせる。
- ・線分図や式のどの部分が全体にあたるかを意識してかいておくように指示する。(表)
- ・考えを交流する際は、①②③のどの方法を使ったかを説明させる。その際、「が全体の比なので」の□に入る言葉や数を入れて考えを発表させたり、ノートに書かせたりする。(表)
- ・どの求め方をしてもよいことを伝え、全体の比はどこにあたるのかを意識させて、問題を解かせる。(理)

◆与えられた比をもとに、全体の大きさにあたる割合をとらえて、分けたときの量を求めている。【思考・判断・表現】

- ・机間巡視をし、答えを求められた児童に丸をつける。早く解けた児童はドリル学習ソフトで個別最適な学習を進める。
- ・単元を通して、比と生活が身近なものであることをふり返り、次時の活動への意欲をもたせる。

	【母語】 在日期間と家庭での生活言語	日本語習得状況（7月）	日本語習得状況（3月）
A	【ベトナム語】 ・母親との会話はベトナム語。兄弟との会話は日本語を使う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会話は日本語でできる。</li> <li>・授業に関係あることをよく発言するが私語も多い。自身が知っていることを授業内容とうまく結びつける力がある。</li> <li>・漢字学習に特に困難さを感じており、学習の定着がしづらい。また、言葉の誤学習も多く、その都度、「これってどういう意味？」と問い返してることが多いため、教師の言葉がけなどの支援が必要である。</li> <li>・集中力が続きづらく、発達に関する困難さも抱えている。</li> <li>・日本語習得状況：ステージ4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が知っている知識を授業内容とうまく結び付ける力がある。</li> <li>・文章から登場人物の気持ちを読み取る際、「〇〇って書いてあるから□□やと思うんだけど」と文脈から考えることができる場面があった。</li> <li>・学習内容について複文を使いこなしながら順序だてて話すことができた。</li> <li>・日本語習得状況：ステージ4</li> </ul>
B	【ベトナム語】 ・両親との会話はベトナム語。カンボジア語も混ぜている。姉妹では日本語で会話をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会話は日本語でできる。</li> <li>・できないという経験から、学習に関して自信がなく、ネガティブな発想・発言が多い。性格は明るい。</li> <li>・1対1での会話は比較的多弁だが、言葉を間違えて理解していることが多く、教師の言葉がけなどの支援が必要である。</li> <li>・日本語習得状況：ステージ5</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の問題などでわからない問題が出てきたときに「この問題がわかりません」と自分の困っていることを相手に伝えることができた。</li> <li>・教科学習の語彙を使って説明や発表ができるようになり、グループでの話し合い活動に参加することができた。</li> <li>・日本語習得状況：ステージ5</li> </ul>
C	【ベトナム語】 ・母親との会話は日本語とベトナム語が半々	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会話は日本語でできる。</li> <li>・学習の定着に時間がかかる。</li> <li>・問題がわからなくても自発的に質問せず、課題を抱えたままになりやすいため、教師の言葉がけなどの支援が必要である。</li> <li>・日本語習得状況：ステージ4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の問題などでわからない問題が出てきたときに「この問題がわかりません」と言えるようになってきている。</li> <li>・意欲が高まり、日本語の理解もよくなっている。</li> <li>・学年相応に近い漢字を使って文章を書くこともできた。</li> <li>・日本語習得状況：ステージ5</li> </ul>
D	【ベトナム語】 ・両親との会話はベトナム語。兄弟との会話は日本語を使う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会話は日本語でできる。</li> <li>・学習の定着に時間がかかるが、自身で内省し、自主学習を継続して取り組んだ成果が表れ始めている。同じ問題を繰り返すことで理解を図っている。</li> <li>・問題がわからなくても自発的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題内容がわからないのに自発的に質問せず、課題を抱えたままになりやすい。教師の言葉がけなどの支援が必要である。</li> <li>・漢字や熟語が入った文章を読んで内容を理解することができるようになってきている。</li> <li>・日本語習得状況：ステージ6</li> </ul>

		<p>に質問せず、課題を抱えたままになりやすいため、教師の言葉がけなどの支援が必要である。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ5</p>	
E	<p>【ベトナム語】</p> <p>・両親との会話はベトナム語。兄弟との会話は日本語を使う。</p>	<p>・日常の会話は日本語でできる。</p> <p>・学習に対して意欲的で、説明を求められる場面でも活躍している。学習面で周りから頼られることも多い。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>	<p>・学習に対して意欲的で、語彙をよく理解し根拠をもとに説明することができる。</p> <p>・学習面で周りから頼られることも多い。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>
F	<p>【ベトナム語】</p> <p>・父親との会話はベトナム語。母親、兄弟との会話は日本語とベトナム語が混ざっている。</p>	<p>・日常の会話は日本語でできる。</p> <p>・学習に対して意欲的で、発表もよく行う。クラス内でもトップクラスの思考レベルで、国語の内容の解釈などは目を見張るものがある。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>	<p>・学習に対して意欲的で、発表もよく行う。クラス内でもトップクラスの思考レベルで、国語の内容の解釈などは目を見張るものがある。</p> <p>・音読は、抑揚や場面の雰囲気に合わせて読んだり、調子を変えたりすることができる。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>
G	<p>【ベトナム語】</p> <p>・母親との会話は日本語とベトナム語が半々。姉妹との会話は日本語を使う。</p>	<p>・日常の会話は日本語でできる。</p> <p>・学習に対して、特別困難さを感じている様子はない。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>	<p>・1か月近く帰国していたが、語彙力や話の流暢さは下がっていない。学習に対して、特別困難さを感じている様子はない。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>
H	<p>【ベトナム語】</p> <p>・父親はベトナム人だが会話は日本語。家庭内では日本語を使う。</p>	<p>・日常の会話は日本語でできる。</p> <p>・学習に対して意欲的で、説明を求められる場面でも活躍している。学習で疑問に思ったことを尋ねることも多く、納得するまで対話をする場面がよくある。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>	<p>・日常の会話は日本語でできる。</p> <p>・学習に対して意欲的で、説明を求められる場面でも活躍している。学習で疑問に思ったことを尋ねることも多く、納得するまで対話をする場面がよくある。</p> <p>・文章から登場人物の気持ちを読み取る際、文脈から深く考えることができる。</p> <p>・日本語習得状況：ステージ6</p>

[学校名：丹波篠山市立丹南中学校]

<b>【具体的な研究テーマ】</b> 日本語指導の必要な生徒の進路実現に向けた日本語能力の定着をめざした支援の在り方について	
1 教科：単元名 国語科「走れメロス」	
2 実施日（時期） 令和 5 年 1 2 月 1 日（金）	3 実施場所 日本語教室（個別学習室 2）
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 生徒の様子・・・学年・母語、学習状況、日本語習得状況など 対象生徒 A は、令和 4 年度 7 月に来日し、2 学期より本校に編入。母語は中国語。明るく社交的な性格で、編入後まもなく部活動に所属し、同学年だけでなく異学年とも幅広い交友関係を築いている。クラスでの授業にも前向きで、多教科で積極的に発表する姿がみられる。 日本語に関しては、家庭学習でひらがな・カタカナの読み書きをある程度習得した上で編入してきた。編入直後から、週 4 回 2 時間のサバイバル日本語の学習を始め、その後、『中学生のにはongo vol. 1』（スリーエーネットワーク）で日本語基礎を学んだ。本年度は週 1 回 2 時間『中学生のにはongo vol. 2』で初中級の日本語の学習を継続している。 教科指導に関しては、母語支援員の週 1 回 3 時間の授業への入り込み支援及び日本語指導担当教員による週 2 回 1 時間の先行学習と補充学習を行っている。学習には意欲的で、家庭のバックアップも十分にある。  (2) 日本語指導に関する目標 ①場面ごとに主となる出来事や人物像が伺える表現を見つけることができる。 ②適切な接続表現を選ぶことができる。 ③段落を意識しながら、文章を書くことができる。  (3) 主な学習活動 ・挿絵を並び替えながら、あらすじを口頭で確認する。 ・主な出来事を抜き出した短冊を並び替えたり、本文に線を引いたりして作品の展開をつかむ。 ・場面ごとに主となる出来事を抜き出す。 ・人物像が伺える表現に線を引き、登場人物の人物像について自分なりの意見を持つ。 ・抜き出した文章をつなげて、ある程度まとまりのある文章をつくる。 ・場面ごとの文章をまとめて、作品のあらすじを書く。	
5 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要）	
6 指導内容の概要（※指導案別途添付）	
7 指導内容・方法において工夫したところ ①先行学習をして作品の流れを大まかに捉えさせることで、在籍学級での学習に意欲的に取り組めるようにした。 ②原文は難解な表現も多いので、日本語学習者用に語彙や文法が制限されたりライト教材を使用し、読む際の困難点をできるだけ軽減した。 ③スモールステップで学習を進めるために、まず、場面ごとに分けて要点を押さえ、その上で、文同士をつなげて重文や複文をつくれるようにした。さらに、ワークシ	

ートを活用して、全体の展開を意識しながら、ある程度まとまりのある文章を書けるようにした。

④取り出し授業だけでなく、在籍学級での授業にも母語支援員に入ってもらい、質問しやすい環境を整えた。

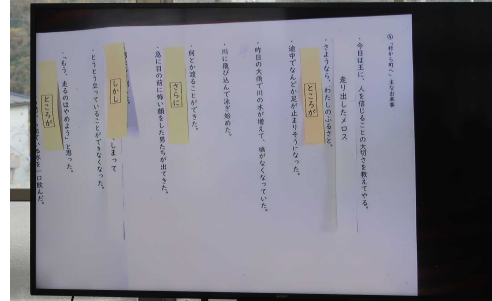
## 8 教材・教具

ワークシート、のり

## 9 活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等



分からない表現を母語支援員に聞きながら、主な出来事を並び替える



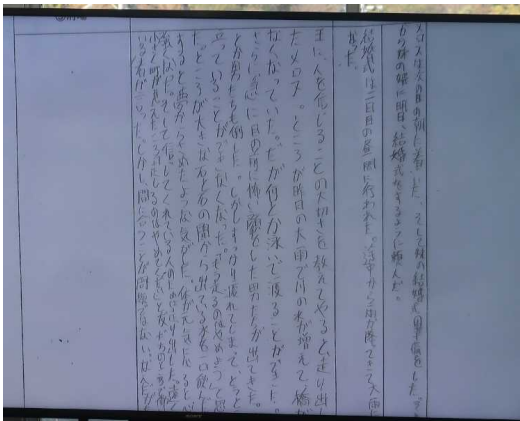
適切な接続詞を選ぶ

### <生徒の感想>

学習の振り返り（12月（日））

今日の学習で学んだことを書く。今日は、「走れメロス」の後半部分を学習しました。文章と文章に入る接続詞が難しかったです。あらすじを書くときにはいろいろな文章があると教えていただきました。

今日は「走れメロス」の後半部分を学習しました。文章と文章に入る接続詞が難しかったです。あらすじを書くときにはいろいろな文章があると教えていただきました。



場面ごとにあらすじをまとめる

## 10 日本語能力測定方法と評価（DLAの活用）

DLAの測定は、日本語推進教員及び丹波篠山市の母語通訳・翻訳支援員が測定者となり、数日に分けて行った。その評価をもとに個別の指導計画を立て、職員及び関係機関と共有して指導内容を検討した。

### <対象生徒のDLA結果より>

5月（来日10カ月）に日本語と一部母語で行った。語彙力90%（母語100%）・話す4（母語5）【実施タスク：基礎・対話・認知】・読む3【実施テキストE】・書く3（母語5）【実施課題W6】・聞く4【実施DVD A3・B8】であった。「書く」は、本人にも苦手意識があり、母語でも事実の羅列ばかりで作文を書く傾向にある。日本語では、意味はなんとか通じるものの、単文が多く、文章全体の構成を意識して書くことは難しい状態であった。

3月（来日1年8カ月）に再度DLAを実施した結果、語彙力98%（母語100%）・話す4（母語5）【実施タスク：前回と同様】・読む3.5【実施テキスト：前回と同様】・書く3.5（母語5）【実施課題W7】・聞く4.5【実施DVD：前回と同様】であった。「話す」の評定は変わらなかったが、5月に比べてステージの上がった項目が増えた。また、「書く」は、数値としては微増ではあったが、課題を年齢相応のものにレベルをあげて実施したことから、書く力は着実についてきていると考えられる。

## 11 実践をとおしての成果

・取り出し授業での先行学習で日本語の表現や語彙を習得してから、在籍学級の授業に臨み、その後、放課後に補充学習をするサイクルによって、内容の理解が格段に進んだ。

- ・要点の押さえ方、接続詞の使い方を学習したことで、展開を考えながら文章を書こうとする姿勢が見られるようになった。また、その後行った在籍学級でのお気に入りの本の紹介（ビブリオバトル）においても、今回の学習を生かしたわかりやすい発表をすることができた。
- ・母語通訳・翻訳支援員が取り出し授業に同席することで、一斉授業への入り込みではなかなかできない支援を本人の必要に応じて、丁寧に行うことができた。
- ・日本語指導員による日本語学習を並行して進めたことで、理解語彙や表現の幅が広がり、教科学習の理解を促進した。

## 12 今後の課題

日本語指導員による日本語学習は本年度で終了する。これからは、語彙や表現を広げるために多読などの活動を積極的に進めていきたい。

また、日本語指導が必要な生徒の進路の実現に向けて、全職員が指導の工夫を行うとともに、計画的に研修や実践を重ねていく必要がある。

## 第2学年 国語科学習指導案

指導者 石田 育子

- 1 対 象 第2学年1名
- 2 日 時 令和5年12月1日(金)5校時
- 3 単 元 名 「走れメロス」

### 4 単元の目標

#### <知識及び技能>

・感情を表す語句に注目して人物像を捉えることで、語感を磨き語彙を豊かにしている。

#### <思考力・判断力・表現力>

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。
- ・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。
- ・文章の構成や表現の効果について考えることができる。

#### <学びに向かう力>

・進んで人物像を捉えながら読み深め、場面の展開や表現の効果について話し合おうとしている。

### 5 指導にあたって

#### (1) 生徒観

対象生徒Aは中国籍であり、滞日年数は約1年5カ月である。編入直後より、取り出し授業による日本語指導と在籍学級における母語支援を受けながら、日本語の習得に向け意欲的に取り組んできた。覚えた言葉や文型を積極的に使おうとする姿が見られ、現在では、学校生活のすべてを日本語で送ることができている。また、授業においても、日本語での発表や話し合い活動に、前向きに取り組んでいる。

一方で、書くことには苦手意識があり、まとまりのある文章を書くときには、短文の羅列で終始してしまうことがある。また、語彙や表現力の獲得が不十分であるため、文学的文章を自力で読み解くことには課題が見られる。そのため、取り出し授業では、母語支援を受けながら、語彙や適切な表現方法について学習している。

#### (2) 教材観

本教材は、自身の身代わりとなって捕らわれた友を救うため、数々の困難を乗り越え、約束の期日までに王城へとたどり着こうと奮闘する主人公メロスの姿が中心として描かれている。物語の主題としては、「正義」や「友情」、「勇気」、「信実」などが読み取れる。また、登場人物の内面の葛藤や苦悩を時系列で読み進めていくと、多角的な視点から人物像を捉えられるとともに主人公の内面的成長も読み取ることができる。

本単元では、情景や心情の描写から人物像を捉える力を身につけさせることができる。また、登場人物の言動について考えるとともに、表現の工夫や特徴についても着目させ、自分なりの視点を持って、作品を読み深めることができると思う。

#### (3) 指導観

指導に当たっては、登場人物の心情の変化をその言動や情景描写に着目させて、場面に沿って理解させる。また、個々の読み取りだけでなく、他者の読み取りとの比較や交流を通して、作品を様々な視点から捉えて読み深めようとする姿勢を身につけさせたい。そのために、先行学習となる取り出し授業では、リライト教材(「走れメロス」(『レベル別日本語多読ライブラリー(にほんごよむよむ文庫)レベル4 vol.1』ask)を使用して、読む際の困難点をできるだけ軽減し、全体の大まかな流れを掴み取らせる。また、在籍学級では、わからない語彙や表現について、授業者がやさしい日本語に言い換えたり、母語支援員が翻訳したりすることで内容の理解を深めさせたい。



6 単元計画(全10時間)

授業形態:取り出し授業及び在籍学級

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価基準
1 取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい日本語や母語で、単元の大まかな流れを確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・登場人物を確認する。</li> <li>・人物像が伺える表現に線を引き、自分なりの意見を持つ。</li> <li>・挿絵を並べ替えながら、あらすじを口頭で確認する。</li> <li>・主な出来事を抜き出した短冊を並び替えたり、本文に線を引いたりして、話の展開をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母語支援員と連携し、母語による理解支援を行う。</li> <li>・挿絵を手掛かりに、主な出来事を想起させる。</li> <li>・短冊を並べ替えることで、話の展開をつかみやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像を、根拠をもって捉えることができる。</li> <li>・作品の大まかな流れをつかむことができる</li> </ul>
2 3【本時】 取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごとの主となる出来事を抜き出す。</li> <li>・メロスの心情を表している表現に線を引く。</li> <li>・抜き出した出来事や表現をつなげて、文章をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない表現や言葉などについては、言い換えや母語による理解支援を行う。</li> <li>・接続詞などを提示して、話の展開を意識して文章をつくることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な出来事を見つけることができる。</li> <li>・メロスの心情を表す表現を見つけることができる。</li> <li>・適切な接続表現を選ぶことができる。</li> </ul>
4 取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごとに文章をまとめて、作品のあらすじを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前後のつながりを意識しながら、文章をつなぐことができるようにする。</li> <li>・段落や句読点を意識して、文章が書けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落を意識しながら、文章を書くことができる。</li> </ul>
5 在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品(原文)を通読し、言葉調べをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母語支援員と連携したり、電子辞書を使ったりするなどして、母語による理解支援を適時行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない言葉や表現を進んで調べようとしている。</li> </ul>
6 在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・王城の場面から、メロスと王ディオニスの人物像を捉える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの人物像について学んだ言葉や表現でまとめようとしている。</li> </ul>
7~9 在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面に沿って、人物や情景の効果的な描写に着目しながら作品を読み深める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの視点を持って課題に取り組もうとしている。</li> </ul>
10 在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を振り返る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気づきや意見をまとめようとしている。</li> </ul>

7 本時の学習(3/10時間目)

(1) 本時の目標

(教科の目標)

- ・主な出来事やメロスの心情を表す表現を押さえながら、場面の大まかな内容を読み取ることができる。

(日本語の目標)

- ・出来事を表す部分と人物の心情を表す部分を分けて、見つけ出すことができる。
- ・適切な接続表現を使って、話の展開を意識しながら文をつなげることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準
1. 本時の学習課題を確認する。	・前時の学習内容を想起させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     3日目「村から町へ」の場面のあらすじを理解し、メロスの気持ちをとらえよう                 </div>		
2. 3日目「村から町へ走る」場面での主な出来事やメロスの心情を捉える。 ・出来事と心情を表す表現を混同している。(生徒の反応) ・直接的な表現で心情を表している部分だけ抜き出している。(生徒の反応)	・前時で線を引いた主な出来事やメロスの心情を表す表現を時系列に抜き出す。 ・出来事と心情を表す部分との線を引き分けるよう促す。 ・メロスの心情が伺える情景描写にも着目させる。	・出来事と心情を表す表現の区別ができる。 ・情景描写からどのような心情が読み取れるか考えようとしている。
3. 適切な接続表現や補足の文を選ぶ。 ・どの接続表現を選ぶべきかわからない。(生徒の反応)	・わからない表現や語句は、補足や言い換え、母語による理解支援を行う。 ・接続表現や補足の文を短冊にして提示し、選択させる。 ・接続表現は、用例を挙げるなどして用法を確認する。	・適切な接続詞を選択することができる。
4. 3日目の場面のあらすじを書く。	・既習の表現を使うよう助言する。	・場面の展開を意識して書こうとしている。 ・複文や重文を使って書こうとしている。
5. 本時の振り返りをする。	・これまでの学習を振り返るよう助言する。	

三日目		③二日目	②一日目	①町に来た日	
⑤刑場	④村から町へ	村		町（シラクス）	場面
					あらすじ

○場面ごとのあらすじを書こう